

1 自己評価及び外部評価結果 1階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500151		
法人名	株式会社 希壮		
事業所名	グループホーム フレンズハウス和楽家 1階		
所在地	愛知県名古屋市中村区猪之越1-5-28		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 12 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ふれあいと「コミュニケーションを大切に尊厳を保ちつつ、ご入居者様の状態を丁寧に見極め寄り添えるように心がけよう」を理念とし、ご入居者様が第二の我が家として感じていただけるよう、ご家族様や知人、スタッフと和みを深め安心して暮らしていただけるよう心掛けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和4年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にあるグループホームは周囲に小・中学校、保育園や幼稚園、ドラッグストアや神社が点在し、恵まれた環境にある。理念にある「尊厳を保ちつつ個々に寄り添ったケア」に重点をおいたケアの実践に努め、特に言葉遣いには都度話し合いを繰り返し職員間で共有している。科学的介護情報システムの導入で更なる日々のケアの充実化とサービスの質の向上に取り組んでいる。マスク着用での散歩が難しい入居者もあり、中庭での花壇の手入れやティータイムの実施で気分転換を図っている。コロナ禍でも状況を見ながら外部ボランティアの来訪で民舞や楽器演奏で行事を楽しみ、時にはカードゲームや職員下絵作成の塗り絵をしたり、座ってできるビデオ体操やフロア内歩行で体力低下防止に努め、和やかな雰囲気の中で安心して暮らせる環境の構築に向け支援している。今後コロナが収束したら以前のように家族や地域住民を交えて行事や外出を実施し地域との交流を一層深めたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議の際に理念を唱和することで共有し実践につなげています。理念の理解に努め、接遇に重きを置いており、必要時にはその都度、個別に職員へ適切な対応を促し実践につなげています。	コロナ禍で職員との関わりが深まる中、日々のケアで欠かせないふれあいとコミュニケーションを取る際に「接遇における尊厳の大切さ」を常に意識しながら個々に沿った対応を心がけ、理念の実践につなげている。職員は相互に実践の場で学び、サービスの質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し交流しております。また施設で行われる納涼夏祭りや周年祭では交流できるよう近所様もご招待していましたが、コロナ禍で中止しています。	町内会に加入し、運営推進会議で地域情報を得ている。コロナ禍で施設行事に地域住民の参加を得ることは難しいが、都度状況を見ながら外部ボランティアを受け入れている。3年ぶりに小学校で開催された学区の敬老会に入居者が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域連携推進会議にて情報の提供や話し合いの場を設けておりますが、開かれた施設として気軽に相談していただける施設を目指していきたいと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や皆様のご意見、いきいき支援センターの報告等を参考にサービスの向上に活かしています。	2か月ごとに施設内会議室で開催し、運営状況、活動報告や身体拘束について資料に基づき報告されている。参加者間でコロナの感染や面会方法、外国籍の職員さん等について意見交換したり、いきいき支援センターからも情報が提供されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域連携推進会議の際いきいき支援センターの方とは情報交換をしたり、区の事業者連絡会にも参加し、強力関係を築くよう取り組んでいます。	区の担当者とは日常的に連絡や情報交換を行っている。区の事業者連絡会も再開され管理者が参加したり、生保の関係で関係部署とも連携・協力関係を築いている。いきいき支援センターの「接遇」の講習会に参加し、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師をお招きして内部研修を行い拘束をしないケアの実践につなげている。また毎月の職員会議ではスピーチロックを含めて身体拘束をしないケアについて話し合い、拘束をしないケアの取り組みをしています。	玄関は夜間のみ安全上の観点から施設している。利用者の状況を見ながら他の施設については話し合い対応している。定期的に研修を実施し、職員は身体拘束の具体的な内容を正しく理解している。スピーチロックは理念の実践にもつながるので、毎月の会議でも問題提起し、より良い声掛けの方法について話し合いを重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律について知識のある管理者の指導の元、職員は注意を払い防止に努めています。外部講師をお招きして内部研修を行い虐待が見逃ごされないよう職員の意識向上を図り虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が学ぶ機会は設けていませんが、入居の際に必要なと感じた入居予定者に関しては管理者から話をさせていただいております。今後は職員が学ぶ機会をつくっていきたく思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行って納得していただいていると思っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域連携推進会議の際に代表として、ご入居者様が会議に出席していただいておりますが、コロナ禍で出席頂いておりません。毎月家族会を開催し交流の機会を設け、三ヶ月に一度のケアプラン検討会でもご家族様の意見・要望を伺っておりますが、コロナ禍となつてからは行事へのご招待や検討会を中心してます。来設時に要望を伺うように努め、検討会へのご意見はお手紙やお電話で伺っております。	面会方法は新型コロナの感染状況を見ながら都度検討しており、現在は会議室で、予約制、15分程度、2人までOKという方法をとっている。家族の来設時やケアプラン検討会、電話等で意見や要望を聞き、口頭や申し送りノートに記入し対応している。毎月「和楽家通信」や「フレンズ便り」を発行し、日常の様子がわかる写真や個々の様子を職員が書き入れ、家族の安心に繋がるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議、朝・夕の申し送り、また日々の業務の中でも職務改善の意見や提案をして頂き運営に反映させています。	毎月の定例会議や申し送り時に入居者のケアに関することばかりでなく、業務改善に関する内容についても話し合い、職場環境や条件等の面でも運営に反映できるよう取り組んでいる。年1回は個別面談を行い、やりがいをもって働けるよう努めており、外国籍職員も積極的に採用しキャリアアップにも力を入れ、職員同士も良好な関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規程に則り職員のやりがいを高めるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議の参加時に研修手当を支給しています。研修にはキャリアアップ助成金を支給して、積極的に研修参加を促し職員の資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の他施設との交流や会議を通じ、介護についての幅広い情報確保に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が環境の変化で困っていること等アセスメントを行い、安心して生活していただけるように信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に御家族様の要望や不安点等を伺いながら信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に御家族様やご本人様の話をお伺いし、ご本人様や御家族様が幸せに過ごせるかを考えて対応するように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などをスタッフと共に行って頂くことで、一緒に暮らす者という関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へお渡しする月1回のお便りにご本人様の様子を記入したり、来所の際に本人様の様子をお話させていただいたりする事で情報交換を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居ということでどうしても関係が途切れてしまいますが、ホームに友人が訪ねて来られることは歓迎しています。その他居室に写真を飾ったり友人に手紙を書いたり電話で話されたりしています。	コロナ禍で友人や知人の訪問はほとんどない。個別で希望があれば年賀状や電話の取次ぎは対応している。以前より新聞の購読を希望されている方の支援も継続している。入居者全員が4カ月ごとの訪問美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら職員が間に入り話をしたり、共同作業も行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も必要に応じ、電話の対応や来所時の対応も丁寧に行っています。退去後も連絡がとりやすい環境に気を付けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を伺うとともにスタッフ会議等でご本人様について検討する機会を設けています。	職員は利用者のその日その時の表情、しぐさ、行動等の様子を観察し、普段との違いに気づきを持ち状況に合わせて接するようにしている。思いや意向、希望があれば即座に検討し、状態に合わせた支援に努めている。また申し送りや連絡ノートで全体に周知し支援体制を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様のそれまでの暮らしの状況等を伺うことによりホームでの生活の参考にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの今の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のスタッフ会議や三ヶ月に一度のケアプラン検討会にて、ご本人様の状態について話し合い、ご本人様やご家族様の意見や要望を取り入れながらケアプランを作成しています。	介護計画は、職員全体で定期的にモニタリングや更新をし、日常の様子や状況の変化に合わせた支援計画となっている。意向や心身の変化があればその都度家族と相談して現状に即した計画を提供している。家族の意見は普段のやりとりや更新前には手紙で要望を引き出し、計画に反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を詳細に個別記録に記入しています。その他申し送りノートにて情報共有を図り、日々のケアはケアプランチェック表を用いて確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて柔軟な支援やサービスを心掛けています。サービスの多機能化も必要に応じて行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握出来ていない部分が多いですが、地域連携推進会議等の話し合いで得た情報を活用し、ご入居者さまが安心安全に暮らして頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医がいいかホームの主治医がいいかを伺い、現在は全員ホームの主治医で往診をうけています。日常の体調の変化を往診時に相談しながら必要に応じて主治医から外部の医療を紹介していただいています。	協力医とは2週間ごとの往診の他、24時間相談できる体制を整え緊急時に備えている。持病への専門医や歯科、皮膚科、眼科等への通院は家族対応だが、必要に応じて通院を支援している。その際の主治医、専門医、家族との情報の伝達や職員への周知も徹底し、安心できる医療体制に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や訪問看護師には、その都度報告・相談しながら利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に情報提供をしたり、退院に備えて情報提供をして頂くなどしています。またお見舞いが禁止されてからは病棟へ電話し担当看護師と情報交換に努め関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合や終末期のあり方について説明させていただいています。重度化・終末期を迎えている利用者様には、主治医とご家族と今後のことを話し合う機会を設け支援に取り組んでいます。	重度化指針を設け入居時に説明し、利用者や家族の同意を得て協力医へ意向している。重度化や急変した際には、主治医、訪問看護師を交えて支援の方針を確認し、日常的な医療が必要になった際はその後の支援について丁寧に対応する様にしている。重度化や緊急時のマニュアルを整備し、スムーズな対応に心掛けている。また訪問看護師より救急措置の勉強会で、不測の事態に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は急急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が定期的に応急手当や初期対応の訓練をしていませんが今後はしていきたいと思えます。急変時の対応については話をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っています。地域の消防署との協力体制は、訓練に参加して頂くなどしており、協力体制は出来つつあります。又、学区の防災安心まちづくり委員会と地域防災協力の覚書を締結しており、地域との協力体制を築いています。	今年度は水害や夜間想定避難訓練の実施があった。消防への通報訓練や火災報知器の点検等を実施し、連携を図っている。訓練は職員が全員把握できる体制を整え、問題点を共有し防災意識を高めている。3日間の水の備蓄や自家発電機を設置し防災に備えている。地域の防災協力事業所となり、災害の際に「無事ですカード」を活用する取り組みを行う等、地域全体で協力体制を強めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということを認識し、丁寧な言葉つかいや言葉掛けをするように気をつけて対応しています。	職員は言葉使いや態度に気を付け、会話時の口調や上から目線にならない様に気を付けて接している。利用者其々に理解しやすく会話を工夫したり、柔らかい言葉使い、名前ではなく苗字で呼ぶ等の配慮に努めている。排泄支援の際は周囲に注意を払い、羞恥心に配慮しさり気なく支援するように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけ、会話をするにより本人の思いや希望を話をしていただけるように気をつけています。イベントやレクリエーションへの参加は本人に決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決っていますがその他の時間は一人一人お好きなように過ごして頂けるようにしています。また、なるべくご本人様のペースに合わせて時間に余裕を持たせたケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に服を選んだり、お化粧したり、マネキュアをつけたい方には職員がつけて身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては好き嫌いを考慮し、どうしても食べられない物に関しては違う物を提供したり盛り付けを変えたりして提供しています。食事は職員も食卓を囲み同じ物を一緒に食べています。調理や片づけ等の参加があります。食事が進むよう観察、記録し原因を探り携帯を変える等工夫している。	食事は栄養士の栄養管理された献立のもと、手作りの食事を提供している。利用者の希望があれば「お楽しみメニュー」として取り入れ、ラーメンやお好み焼きの提供があった。節句に合わせた季節のメニューや、テイクアウトで食べたい物を食べる機会もある。食後、下膳や食器拭き、テーブル拭き、もやしのひげ取りや餃子の皮包み等、利用者が家事を通じて活躍できる場となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量をチェックして1日を通じてどのくらい摂取しているか確認しています。食事に関しては一人一人の状態に応じて薄味にしたり、細かくしたりして配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、洗いきれしていない所は介助させていただくことにより清潔を保持するように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄の状態を確認するとともに尿意、便意を感じない利用者に対しては仕草や行動を観察しトイレ誘導をする等配慮しています。	排泄チェック表を活用し、その日の調子に合わせてタイミングよくトイレで排泄できる様に支援している。日々の様子を職員間で話し合い、リハビリパンツから布パンツに変更でき自立につながる支援にも繋げている。昼夜問わず介護者優先の排泄介助ではなく、利用者其々に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により確認するとともに毎日体操の時間を設けたり、バランスを考えた食事の提供、一人ひとりが美味しく食べられる工夫をすることで予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にあわせてゆっくり入浴できるように心掛けています。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じ楽しむ工夫を行っています。	週2から3回入浴でき、その日の気分や体調に合わせて気分よく入浴できる様に支援している。脱衣所と浴室の寒暖差に注意し、体調不良時は清拭や足浴の対応を行っている。拒否のある利用者には上手に声掛け誘導するが、無理強いせず翌日の入浴する様に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて居室でゆっくりされる人、リビングで好きなことをされる人等それぞれ思い思いに過ごしていただき夜間気持ちよく眠るように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際に薬の変更があった場合は主治医の話が職員全員が理解できるように配慮しています。また薬情報を個別記録ファイル綴じ職員が常に確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、裁縫、手芸等、生活歴や好きなこと、得意なことを行なっていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では近所のドラッグストアへ買物に出かけたり散歩や中庭でゆっくり過ごしていただいたりしています。外出行事や外食等を企画したり月に1度はご家族様を招待し様々な行事を企画して楽しんでいただけるように配慮しています。	ホーム外周の日常散歩の他、中庭に出て花壇の鑑賞やティータイムを設け外気浴できる機会を作り、利用者全員が気分転換を図れる様に支援している。近隣ドラッグストアへの買い物や、希望があればドライブ、敬老会の参加、施設行事の花見や日帰り旅行等、利用者がホームにこもらず外出を楽しめる様な取り組みも行っている。今年度は馴染みの喫茶店へ出掛ける事も再開された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご本人やご家族様が希望された場合はご本人が所持しています。所持をせずに預かっている場合でも外出で買い物をする場合は好きな物を購入して頂けるように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族様の希望があれば電話をすることもできますし、手紙のやりとりもできるようにしています。ご本人さまで携帯電話を利用されている方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を取り入れたご利用者様の作品を飾ったりしています。日中はなるべく外光を取り入れるようにしている。共用空間をきれいにしてお過ごししやすいように工夫しています。	リビングは利用者が生活しやすく同線を確保し、転倒防止に努めている。定期的な換気や消毒、空調管理、加湿器や空気清浄機を設置し、清潔が保たれ気分よく過ごせる様に配慮している。壁には利用者が作った季節の作品を飾りアットホームな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘こたつでくつろいだり、ソファで話ができるように工夫している。リビングでテレビをみたり話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族様には今まで生活していた馴染みのものを持ってきていただくように話をさせていただき、ご本人が過ごしやすいようにしています。その他思い思いに写真を飾ったりして居心地良く過ごせるようにしています。	各居室にはベッドや棚の備え付けがある。利用者が使い慣れた家具やTV、仏壇等を持ち込み、趣味の手芸や家族写真等を飾り、利用者其々が落ち着いて過ごせるような居室空間となっている。職員が掃除や整理整頓し、できる利用者は掃除やシーツ交換を一緒に行い残存機能を高める取り組みに繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉の帯の色は青、居室は茶色、浴室はオレンジとそれぞれに色分けすることにより視覚的にわかるように工夫しています。		